

日本共産党の躍進で
大企業奉仕の政治から
「国民が主人公」の政治へ

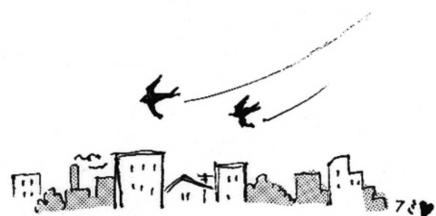
発行・編集 日本共産党九度山町支部
《連絡先》648-0101 九度山町九度山747-32
伊丹俊也
TEL&FAX 0736-26-7382

古沢傘鉾・椎出鬼の舞

日本共産党九度山町支部
町政対策委員長 伊丹俊也

8月16日、上古沢にある古沢巖島神社の傘鉾を見てきました。これは五穀豊穰、家内安全を願って竹で編んだ傘鉾を奉納する祭礼です。

午後2時頃から始まると聞いていたので、午後より「しんぶん赤旗」日曜版を配達するとちょうどいい時間に古沢巖島神社に着けると思っていました。ところが当日は30度を超える猛暑。読者の方はだれも家の外には出ていません。ですのでいつもなら何人かの読者の方と話ができるのですが、その日は会えませんでした。



古沢巖島神社の傘鉾

が見守るなか簡素かつ厳かにおこなわれました。

また同じ日、午後五時頃より椎出巖島神社にて「鬼の舞」が行なわれました。これは、五穀豊穰、悪疫払い、雨乞いを祈願する神事です。赤髪の鬼が笛と太鼓の音にあわせ、棒を操り舞を演じます。

この鬼の舞は和歌山県の無形文化財に指定されています。鬼の舞が行なわれていた時は、100人以上、境内の外にいる人を含めると200人くらいいたかもしれません。こど

そのため、予定よりも早い1時30分くらいに神社につきました。境内の日陰が始まるのを待っていたのですが、暑さのせいかなんだか気分が悪くなってきました。これはいかにとばかり、すぐに自動販売機で清涼飲料水を買って水分補給をし、事なきを得ました。

傘鉾の奉納は、数十人の人



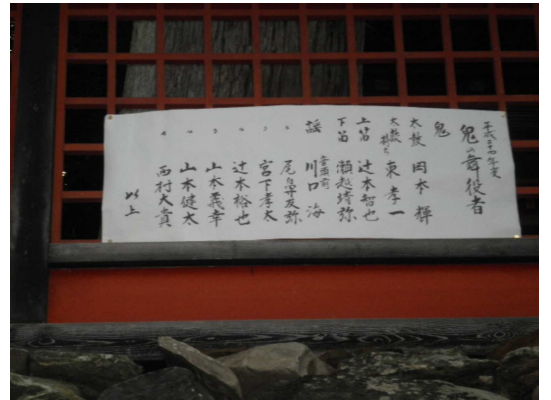
こどもを抱える鬼

ももたくさん来ていました。鬼に棒で触れられたことも病気にかからないということ、鬼は境内にいたことでも脅かしたり、抱きかかえたりと大暴れでした。鬼から逃げようとするこどもや鬼にせまられて泣き叫ぶこどもの声などで、「種独特の高揚感に包まれていました。」

さて、この鬼の舞の祭事には「中人衆」というのがあり、太鼓、笛、音頭取り、謡をやっています。年齢的には中学生、高校生がやっているようです。



鬼と十人衆



鬼のところだけが空白

聞くところによると、過疎化や少子化の影響か、該当する年齢のこどもが集まらない時は、大人が傘鉾の中に入ることもあるとのこと。推出地区の人口構成がどうなっているか詳しくは知りませんが、こどもが少なくなっているとしたら鬼の舞の将来が心配です。「中人衆」を誰が務めたかは、神社境内に名前が貼り出されます。しかし、なぜか鬼のところだけが空白です。このことを推出の方に尋ねてみましたところ、次のように教

えてもらいました。鬼は誰にも知られてはいけません。知られてしまうと、長生きできないと言われている。また次のようなことも教え



てもらいました。鬼の役を誰がやるかわからないようにするため、鬼の舞の稽古は「十人衆とは」別に鬼だけにする」とも。

私は、7月から九度山町内各地を党の政策ビラ配布などで駆け回っています。九度山町は毎年人口が減少し続け、厳しい状況にあります。その中でも山間地では集落そのものがなくなってしまうのではないかとこの状況にあるという話を、ひしひしと身をもって感じます。ふるさとは、景観や建造物、

そこに住む人とその人たちが育んできた風習や文化が一体となって存在するものです。無形文化財は、いったん途絶えてしまうと復活は困難です。今回、古沢の傘鉾や推出の鬼の舞に初めてふれて、ふるさと九度山の誇れる行事だと感激しました。

私は、安心して住み続けられる九度山町にするためにも、住民のみなさんの意見をいただき、一緒に智恵をしばらく考え行動していきたいと思えます。



古沢巖島神社